学校番号	１０８

令和８年度　芸術科

教科	美術	科目	表現にふれる	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・教科としての美術だけではなく、卒業後における、生涯学習としての「美術」、もっと社会や生活、人生と深い繋がりのあるものとしての「表現」や「鑑賞」を意識して欲しいです。
・視覚、触覚、感じ取ったことから思考する「絵画・彫刻」、目的や機能から考える「デザイン」、感覚的・技術や機能から考える「映像メディア表現」「鑑賞」の分野について学習します。
・生徒同士が作品を相互に鑑賞（批評）することで、様々な違った視点や考え方を確認することで、表現感覚や表現理解の幅がさらに広がります。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・素材に合わせた技術・技能の習得、表現の多様性を知る。
【思考力、判断力、表現力等】
制作過程の中で周りから受ける刺激や意見を意識的に感じられるようにし作品に活かす。
【学びに向かう力、人間性等】
現代社会の中で様々な表現に対する理解と関心を引き出していくことに努める

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	創造性のある作品表現を表現するために必要な技術、知識を身につけ、教材や素材に応じて技術を習得していく。道具や機械だけに頼るのではなく手で拵えていく過程の理解。	発想に多様性を持たすのはもちろんのこと、独創性、想像力を働かせ、感じることで作業のみに留まらず、「作業」と「思考」を合わせる事で「表現」をさせる。	現代社会、日々の生活の延長として美術を捉える。または自分をみつめる。 創造活動を行い、制作過程での達成感や喜びを味わうことでより美術としての文化、鑑賞の関心につなげる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	表現について	【鑑賞】【デザイン】【絵画、彫刻】・オリエンテーション 「表現」と「触覚」について	a:現代活躍されている作家の様々な表現を知る b:美術の歴史と文化について自身との関連性を考える。 C:生涯学習として美術的なものについて	表現について		作品鑑賞
	平面構成	【絵画】【造形】 ・1枚の紙から① ・1枚の紙から② インスタレーション	a:紙の表現の可能性を考える b:テーマを設定し具体的に作品制作、素材の理解を深める。 c:アイデアを考え抜く	エスキース作品からのコラージュ展開	取り組み状況	課題の取り組み 相互鑑賞
	金属工芸	【工芸】 ・指輪の制作	a:作品の緻密さ b:デザインの独自性 c:使用感	取り組み状況 作業の精巧さ	工程の理解	相互鑑賞 レポート
2学期	陶芸	【造形】【陶芸】 ・土(粘土)に触れることで原始的な直接触覚に向き合う作品表現	a:触覚への意識(土遊びの感覚を思い出す) b:ユニバーサルデザインから食器の可能性を考える。 c:造形の美しさを探る	デザインと使いやすさ	作品のバランス 作品の触覚使用感	取り組み状況
		【絵画】【デザイン】 ・タイポグラフィ ・ゼンタングル	a:文字について考える(形と意味について) b:繋げた文字を黒画用紙に切り抜く c:文字の隙間から見える絵を白画用紙に描き重ねてラミネート	作品の緻密さ精巧さ	文字と形の組み合わせ	取り組み状況
3学期		【造形】【映像メディア表現】 【鑑賞】 ・ファッションデザイン	a:ファッションの用途と理解 b:グループで作品を制作するにあたって、意見の集約や発想やアイデアの共有 C:計画的かつ創造性のある作品を協力して目指す。	ファッションの基礎	共同制作の作品 作品の見せ方	グループでの取り組み状況 相互鑑賞

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度